

教育研究業績書

令和5年5月10日

氏名 野間 智子 印

教育上の能力に関する事項

事項	年月	概要
1 教育方法の実践例	平成27年4月 ～現在に至る	担当授業で、ICTを用いた教材を作成し、活用している。学生の臨地実習における学習効果促進のため、スライド等を用いた事前・事後指導を行っている。担当したゼミ学生の地域連携活動の指導を行っている。中間発表及び最終発表に向けてのプレゼンテーション指導、アンケート解析の指導等を行っている。
2 作成した教科書・教材	平成22年11月 ～現在に至る	食育(地産地消)に使用する媒体、小学生の予防教育の授業で使用する「食育アニメストーリー」、高齢者および幼児向け口腔ケアの食育DVD、シニア向け食育指導書作成(内閣府「地域少子化対策強化交付金」)、食物アレルギー教材、離乳食の小冊子、食物アレルギーの栄養指導用テキスト、保育園&幼稚園へ貸し出し用DVD等教育媒体を自主作成し、授業や実習で活用している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価	平成21年6月 平成27年6月 ～現在に至る 平成28年7月	内閣府特命担当大臣より「第1回食育推進ボランティア表彰」を受賞した。 学生による授業評価、FD・研究研修会での教員の相互評価で、いずれも高評価を得ている。 「食物アレルギー啓発活動:食物アレルギー対応レシピ本の作製および教育」に対して、第33回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会 学会奨励賞受賞した。
4 実務の経験を有する者についての特記事項	平成23年6月 平成23年12月 平成26年2月 平成26年9月 令和2年10月 令和2年12月 令和3年10月	徳島市立一宮小学校で食育授業を担当(6回) 徳島県立特別支援学校(高校)での食育授業を担当(4回) 徳島県立池田高等学校定時制で食育授業を担当 徳島県鳴門市立西小学校で食育授業担当(8回) 兵庫県立尼崎高校2年生を対象に食育授業を実施した。 神戸常盤女子高等学校1年生を対象に食育授業を実施した。 兵庫県立西宮今津高等学校2年生を対象に食育授業を実施した。
5 その他	特記事項なし	

職務上の実績に関する事項

事項	年月	概要
1 資格、免許	昭和57年3月 平成5年3月 平成5年7月 平成26年4月 平成31年4月 更新 平成28年10月	中学校教諭第二種普通免許(家庭科)(第3212号) 栄養士免許(第31091号) 管理栄養士登録(第58966号) 日本小児臨床アレルギー学会認定資格:小児アレルギーエドゥケーター(第216号)食物アレルギーの指導について、教育を行なう資格。 日本咀嚼学会認定資格:健康咀嚼指導士(第1226号)
2 学校現場等での実務経験	平成27年4月 平成28年4月	成美大学短期大学部生活福祉科食物栄養専攻准教授(平成29年3月まで)担当科目「栄養指導論、臨床栄養学」 福知山公立大学地域経営学部医療福祉マネジメント学科非常勤講師(平成31年3月まで)担当科目「臨床栄養学」

様式第4号（教員個人に関する書類）

	平成 29 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 4 年 4 月 令和 4 年 6 月	奈良佐保短期大学生活未来科食物専攻 准教授（平成 30 年 3 月まで）担当科目「栄養指導論、栄養指導論実習、食事療法学実習、調理学実習」 甲子園大学栄養学部栄養学科 准教授 担当科目「栄養教育論、栄養教育論実習、食育演習、学校栄養指導論、栄養教育実習、教職実践演習、特別演習、臨地実習、専門セミナー」 大阪大学大学院医学系研究科 招聘准教授 甲子園大学栄養学部栄養学科 教授（現在に至る） 大阪大学大学院医学系研究科 招聘教授（現在に至る）				
3 実務の経験を有する者についての特記事項	平成 20 年 11 月～ 平成 21 年 5 月～ 平成 24 年 6 月～ 平成 24 年 7 月 平成 25 年 10 月 平成 26 年 7 月～ 平成 27 年 4 月～ 平成 27 年 7 月 平成 28 年 2 月～ 平成 30 年 7, 8 月 平成 30 年 8 月～ 令和元年 9 月～ 令和元年 11 月	全国親子クッキングコンテスト審査委員（現在に至る） 徳島県農林水産審議会委員（平成 23 年 3 月まで） 四国保育団体合同研究集会分科会アドバイザー（平成 29 年 3 月まで） 徳島県消費者大学校（地域消費者リーダー養成コース）講師担当 徳島市教育委員会, 徳島市幼・小・中・高等学校食育リーダー研修会講師担当 徳島県保育事業連合, 食育研修会講師担当（県内保育所職員及び保育事業関係者対象）（平成 28 年 8 月まで） 徳島文理大学保健福祉学部助産師学専攻科 外部講師担当（平成 29 年 3 月まで）担当科目「助産診断技術学Ⅰ・幼児栄養学」 鳴門学校保健会, 小学校教員対象夏季研修会講師担当 京都府福知山市男女共同参画審議会委員（平成 30 年 11 月まで） 奈良県保育士資格特例講座担当 保育士等キャリアアップの研修・専門別研修「食育・アレルギー対応研修会」講師担当および「保育所給食担当者研修会」講師担当（現在に至る） 日本小児臨床アレルギー学会将来構想委員及び倫理・相反委員（現在に至る） 放送大学 2019 年度卒業研究の審査教員（副査）				
4 その他	特記事項なし					
担当授業科目に関する研究業績等						
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概要
栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養教育論Ⅲ	(著書) 1. 食育支援プログラム（食育編） 2. 新版 食物アレルギーの栄養指導 3. 食物アレルギー	共 共 共	平成 27 年 2 月 平成 30 年 8 月 平成 30 年 9 月	徳島県 医歯薬出版（株） 診断と治	13 (60) pp. 1-13 6(166) pp. 100-105 5(160)	シニア版食育研修会用食育指導書。本指導書により、シニアによる地域への食育推進を可能にした。(著者：野間智子, 佐藤香代子, 濱田容子, 小林雅代, 高井正博 執筆担当部分：指導書の編集責任者として企画立案を行い、原稿を作成した) <u>食物アレルギーの栄養指導方法の教科書</u> 。(著者：今井孝成, 高松伸枝, 林典子, 野間智子 執筆担当部分：「クリニックにおける栄養指導」) <u>食育の観点から幼児～小学校低学年の</u>

様式第4号 (教員個人に関する書類)

<p>一お弁当の ABC-食物アレルギーの知識と給食おきかえレシピ・アイデア集</p> <p>4. 小児アレルギーエドゥケーターテキスト(改訂第4版)</p>	<p>共</p>	<p>令和5年5月</p>	<p>療社(株)</p> <p>診断と治療社(株)</p>	<p>pp. 70, 72, 96, 101, 103</p> <p>7(244) pp. 188-194</p>	<p>アレルギー患児が、安全に昼食を食べられるよう食事バランスを配慮したお弁当のメニュー集。(著者：今井孝成、林典子、野間智子 執筆担当部分：レシピ作成)</p> <p>小児アレルギーエドゥケーター認定制度の基礎講習に準拠し、アレルギー疾患の基礎知識から患者教育の指導技術まで PAE に求められる内容を解説。PAE を目指す看護師、管理栄養士、薬剤師向けテキスト (著者：今井孝成、近藤康人、野間智子 執筆担当部分：QOL 向上を目指した生活指導と移行支援について)</p>
<p>(その他4編) (学術論文等)</p> <p>1. 「手コマ式食育指導プログラム」の開発とその食育への実践的活用 (査読付)</p>	<p>共</p>	<p>平成20年10月</p>	<p>日本食育学会誌第2巻4号, 2008</p>	<p>pp. 159-166</p>	<p><u>独自開発の栄養教育プログラムの実践とその効果についての研究</u>。オリジナル媒体である「食事バランスの手」を取り入れ、幼児が「適正な食事とは何か」を容易に理解できる内容とした。プログラム実施の介入前後で調査を実施し、高い評価を得た。(著者：野間智子、木村寿佳子、坂元亮介、高井正博 担当部分：研究代表者として、手コマ式手法を考案し、論文作成の全般を主導した。)</p>
<p>2. 食育ダンス(ホネホネダンス)の開発とその実践 (査読付)</p>	<p>共</p>	<p>平成22年5月</p>	<p>日本栄養士会雑誌53巻第5号, 2010</p>	<p>pp. 13-20</p>	<p><u>食育ダンスの開発と実践およびその効果についての研究</u>。栄養素の名称を取り入れた食育手法を考案し、教育効果測定から高評価を得た。(著者：野間智子、木村寿佳子、近藤佳代、相原由佳里、坂元亮介、高井正博 担当部分：研究代表者として、栄養教育用の演示媒体を考案し、論文作成の全般を主導した。)</p>
<p>3. 聴覚障害者を対象とした「食育プログラム」の実践 - 特別支援学校及び啓発講座での食育の取り組みについて(査読付)</p>	<p>共</p>	<p>平成25年1月</p>	<p>日本食育学会誌第7巻第1号, 2013</p>	<p>pp. 65-74</p>	<p><u>聴覚障害者用食育プログラムの開発と実践による効果評価の研究</u>。幼児～高齢者で実施した食育講座の取り組みと教育効果を報告し、<u>視覚障害者への栄養教育へとつなげた</u>。(著者：野間智子、山本佳苗、近藤佳代、勢井雅子 担当部分：研究代表者として、PDAC サイクルに基づいた栄養教育プログラムを考案し、論文作成の全般を主導した。)</p>
<p>4. Development of a shokuiku program for elementary school children and evaluation of its intervention effects. (査読付)</p>	<p>共</p>	<p>平成27年1月</p>	<p>Journal of Japanese Society of Shokuiku, 9(1), 2015</p>	<p>pp. 53-64</p>	<p><u>心理学的理論と手法を用いた食育プログラムの開発・実践と教育効果についての研究</u>。プログラムは、小学校の3年生の授業として4回にわたり実施した。統制校と教育校で取得した実施前後のデータを比較し教育効果を得られた。(著者：Noma T, Uchida K, Yamasaki K. 担当部分：研究代表者として、小学生を対</p>

様式第 4 号 (教員個人に関する書類)

<p>5. Development and use of animation media “Health Promotion Tour to the Country of Balance” in nutrition education. (査読付)</p>	<p>共</p>	<p>平成 28 年 3 月</p>	<p>Bulletin of Seibi Junior College,44 (1), 2016</p>	<p>pp. 1-7</p>	<p>象とする栄養教育プログラムを考案し、論文作成の全般を主導した。)生活習慣病予防のために、児童が興味を持ちやすく、内容を理解しやすいアニメーションを活用した<u>栄養教育支援教材(動画媒体)</u>を作成した。この媒体の特徴は、社会的認知理論に基づいた心理学的手法により自己効力感を高める内容である。この<u>動画媒体を使った栄養教育を小学校で実践し、教育効果がみられたことから、今回開発した動画媒体は、児童への栄養教育(食育)を支援するのに役立つことが示された。</u>(著者：Noma T, Uchida K, Yamasaki K. 担当部分：研究代表者として、栄養教育媒体を考案し、論文作成の全般を主導した。)</p>
<p>6. Effects of School-Based Nutrition Education Program on Behavioral Changes in Dietary Habits : Analysis of Elementary School 4th Grade. (査読付)</p>	<p>共</p>	<p>平成 30 年 3 月</p>	<p>Bulletin of Nara Saho College Vol.25, 2018</p>	<p>pp. 1-15</p>	<p>行動科学の理論に基づいて開発した<u>小学校中学年生向け栄養教育(食育)プログラムを小学4年生に実施し、評価を行い、その効果を確認した。</u>(著者：Noma T, Uchida K, Nakano Y, Yamasaki K. 担当部分：研究代表者として、企画立案および効果評価を行い、論文作成の全般を主導した。)</p>
<p>7. Preventive health effects of dietary education in the elderly persons. (査読付)</p>	<p>共</p>	<p>平成 31 年 3 月</p>	<p>Bulletin of Koshien University, Vol. 46, 2019</p>	<p>pp. 19 - 24</p>	<p><u>高齢者の健康寿命に關与する因子を抽出するために、高齢者の食生活の実態を調査し、食育介入を行った。</u>その結果、食育介入後では一日における肉類摂取回数が増加し、「食事バランスの理解度」に有意な上昇が見られ、食育介入の効果が示唆された。(著者：Noma T, Kabayama M, Noma T, Kamide K. 担当部分：研究代表者として、企画立案および効果評価を行い、論文作成の全般を主導した。)</p>
<p>8. Problems faced by pediatric patient with allergies to multiple antigens and issues in nutritional diet guidance. (査読付)</p>	<p>共</p>	<p>令和 2 年 3 月</p>	<p>Bulletin of Koshien University, Vol. 47, 2020</p>	<p>pp. 75 - 81</p>	<p>管理栄養士が経験した指導困難な小児アレルギー症例を再調査し、適正な指導法の確立と患者対応の改善方法を検討した。多抗原除去中の食物アレルギー患児に焦点を当て、実施した3年間の<u>栄養食事指導について指導方法の課題の整理と改善策を提示した。</u>(著者：Noma T, Sato, K, Yamada, S. 担当部分：研究代表者として、企画立案・効果評価を行い、英文論文作成全般を主導した。)</p>
<p>9. Association of anemia and SRH</p>	<p>共</p>	<p>令和 2 年 7 月</p>	<p>Geriatr Gerontol</p>	<p>pp. 720-726</p>	<p>超高齢化社会での課題である健康寿命の延伸を目的に地域在住高齢者の貧血</p>

様式第 4 号 (教員個人に関する書類)

	<p>in older people: the SONIC study. (査読付)</p>			<p>Int. Vol. 20, 2020</p>		<p>の実態と生命予後の指標とされる <u>主観的健康感との関連性を明らかにし、栄養教育の意義を検討した。</u>(著者: <u>Noma T, Kabayama M, Gondo Y, Yasumoto S, Masui Y, Sugimoto K, Akasaka H, Godai K, Higuchi A, Akagi Y, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Ikebe K, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, and Kamide K.</u> 担当部分: 研究代表者として企画立案および効果評価を行い、英文論文作成を主導した。)</p>
<p>10. The impact of digitized teaching on nutrition education during the COVID-19 pandemic (査読付)</p>	<p>共</p>	<p>令和 4 年 3 月</p>	<p>Bulletin of Koshien University 49 2022</p>	<p>pp. 1-6</p>	<p><u>栄養教育論をモデルとして、デジタル化教材を作成し、オンライン学習を実施し、教育効果を分析し、通常授業と同等の教育効果を得た。</u>(著者: <u>Noma T, Nowaki K.</u> 担当部分: 研究代表者として、企画立案および効果評価を行い、英文論文作成の全般を主導した。)</p>	
<p>11. 栄養教育論実習における遠隔(オンライン)発表手法の有効性(査読付)</p>	<p>共</p>	<p>令和 5 年 3 月</p>	<p>甲子園大学紀要 No. 50 , 2023</p>	<p>pp. 51-56</p>	<p><u>栄養教育論実習において、遠隔(オンライン)プレゼンテーション方式によるトレーニングを実施した。</u>(著者: <u>野間 智子・野脇 京助</u> 担当部分: 研究代表者として、企画立案および効果評価を行い、論文作成の全般を主導した。)</p>	
<p>12. Lower cognitive function as a risk factor for anemia among older Japanese women from the longitudinal observation in the SONIC study (査読付) (その他 6 論文) (教育実践記録等) 学会発表</p>	<p>共</p>	<p>令和 5 年 3 月</p>	<p>Geriatr Gerontol Int. 2023</p>		<p><u>高齢者の貧血と認知機能の関連を明らかにし、栄養教育の介入の意義を検討した。</u>(著者: <u>Tomoko Noma, Godai Kayo, Mai Kabayama, Yasuyuki Gondo, Saori Yasumoto, Yuki Masui, Ken Sugimoto, Hiroshi Akasaka, Yoichi Takami, Yasushi Takeya, Koichi Yama</u> 担当部分: 研究代表者として、企画立案および効果評価を行い、英文論文作成の全般を主導した。)</p>	
<p>1. Effects of Nutrition Education using Dance Program on Eating Habits</p>	<p>共</p>	<p>平成 20 年 9 月 7~11 日</p>	<p>15th International Congress of Dietetics</p>		<p><u>開発した食ダンスの開発と実践およびその効果について国際学会で発表した。</u> 15th International Congress of Dietetics Program Book, p.77 <u>Tomoko Noma, Sugako Kimura, Takafumi Noma.</u></p>	
<p>2. 「食育指導プログラム」の普及およびその効果</p>	<p>共</p>	<p>平成 21 年 6 月 6 日</p>	<p>日本食育学会第 3 回大会</p>		<p><u>独自開発の食育指導プログラムの実践とその効果について研究報告を行った。</u> 日本食育学会第 3 回食育学会講演要旨集, p. 31(著者: <u>野間智子、木村寿佳子</u> 研究代表者として、企画立案および効果評価を主導した。)</p>	
<p>3. 『「食事バランスガイド」を用い</p>	<p>単</p>	<p>平成 21 年 7 月 5 日</p>	<p>第 1 回食育推進学</p>		<p><u>徳島版「食事バランスガイド」を用いた独自の食育活動について事例発表を行</u></p>	

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	<p>た食育活動』について</p> <p>4. 特別支援学校(聾学校)における出前食育授業を実践しその効果</p> <p>5. 「クリニックの管理栄養士の役割～食事バランスを重視した～」</p> <p>6. The Efficacy of Digitized Teaching on Nutrition Education during the COVID-19 Pandemic (その他 21 回学会発表) (科研費)</p> <p>令和 4 (2022) 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) (若手研究)</p>	<p>共</p> <p>共</p> <p>単</p>	<p>平成 24 年 5 月 20 日</p> <p>平成 27 年 6 月 20, 21 日</p> <p>令和 4 年 8 月 19 日</p> <p>令和 4 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日</p>	<p>習会</p> <p>日本食育学会第 4 回</p> <p>第 32 回日本小児難治喘息・アレルギー学会</p> <p>The 8th Asian Congress of Dietetics</p>	<p>った。平成 21 年度農林水産省につぼん食育推進事業国民参加型食育推進事業東京地区第 1 回食育推進学習会報告書, pp. 2-3 野間智子</p> <p>特別支援学校(聾学校)における出前食育授業の実践報告について発表した。日本食育学会第 4 回食育学会講演要旨集, p. 36 著者: 野間智子、近藤佳代、山本佳苗、坂元亮介、高井正博、勢井雅子</p> <p>パネルディスカッションの招待演者として、<u>食事バランスを重視したクリニックの管理栄養士の役割について</u>を発表した。日本小児難治喘息・アレルギー学会誌第 13 巻第 2 号, p. 94</p> <p>コロナ禍におけるデジタル化教材の大学教育効果について、アジア国際学会で発表した。The 8th Asian Congress of Dietetics Program Book, p. 27 Tomoko Noma, Kyosuke Nowaki.</p> <p>研究課題: 「デジタル化食育プログラムは、新たな生活様式において効果的な栄養教育手法となるのか」 課題番号: 22K13603 : 403 万円</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養教育論実習 ・ 教職実践演習 ・ 事前・事後指導 ・ 食育実践演習 I ・ 食育実践演習 II ・ 地域協働論 ・ 教職演習 III ・ IPE (STEP1~3) ・ 特別研究 	<p>栄養教育論 I ~ III と同じ内容</p>				